

中教審教育課程部会の審議経過報告

学習指導要領改訂に向けて審議をおこなっている中教審教育課程部会は、2月13日、「審議経過報告」(以下、報告)を発表しました。まだ審議過程であり、新しい学習指導要領の姿が鮮明になっていないわけではありませんが、現時点でも指摘しなければならぬ重大な

主張

新聞全教

解説

問題点があります。

第1に、もっとも重大な問題は、国が目標を決め、国が評価することです。つまり、「到達目標を国が決める」として、学習指導要領の拘束をよりいっそう強

学校の教育活動が感じられるにしようとするものであり、断じて許せません。第2に、教育内容において、いっそうのつめこみが強められる危険性があるということです。しかもそ

復練習」、文章や資料を読んで「A4 1枚にまとめることなどが述べられていきます。これでは、国語科は「暗記とドリルと見解、感想の強要」の教科となっ

のである一時期において、子どもの自主性を強調する余地、教師が指導を躊躇する状況があった」と述べています。教育行政が指導主事や校長をとおして、「教師は指導してはいけない」などと「指導」し、現場に大きな混乱を引き起こしたことを忘れたとも言うのでしようか。指導放棄を迫られ、教師としての尊厳を傷つけられてきた多くの教師・教職員の気持ちをどう

目標・評価を国が決め 学校をがんじがらめに

めるとともに、全国一斉学力テストを使って、これを「評価」し、「学校評価」「教職員評価」に運動させようとするものです。いっそう「競争と管理」を強めて子どもをふみつけにし、

れを子どもの発達段階を考慮せずに、いわば「たたくこみ」とでもいうべき方法でおこなおうとしているのです。たとえば、国語においては、小学校段階からの古典の「暗唱」、漢字の「反

第3は、現場に「新学力観」を押しつけ、教職員に指導放棄を迫ってきた文部科学省の責任を教職員の指導に転嫁しているという重大問題です。報告は、「現行の学習指導要領に至るま

怒りを禁じえません。(教文局長 山口 隆)
.....
教文局長談話で、詳細に問題の指摘をしています。全教HPをご覧ください。